8月15日のウクライナ情報

安斎育郎

●ロシアとトルコがルーブルによる通商で合意（2022 年 8 月 8 日）

https://parstoday.com/ja/news/world-i102406

ロシアとトルコの両首脳は、今後の両国間の商取引をロシアの通貨・ルーブルで行うことで合意しました。

ロシアのタス通信によりますと、トルコのエルドアン大統領は、「我が国はロシア政府と、ロシアの通貨・ルーブルで商取引を行うことで合意した」と述べました。

エルドアン大統領はまた、ビザおよびマスターカードの代替となるロシア発行のクレジットカード「ミールカード」について、「現在トルコの 5 つの銀行が受け入れている」としました。

西側諸国が反ロシア的アプローチを取り、同国に対して経済制裁措置を取ったことを受けて、ロシアは国際取引などにおいて使用されていたドルを自国通貨に置き換える決定を下しました。

ロシア政府は以前から、他国へ輸出する石油・ガスの支払いをルーブルで行うことを前提条件としています。

ロシアとトルコが、両国間の通商取引からの米ドル排除に向けた協力を開始しました。

ロシアとトルコは、中国などの世界の一部諸国に続いて、国家間取引からの米ドル排除の意向を持っています。

ファールス通信によりますと、トルコのエネルギー相は、「ロシアとの貿易関係を深め、また世界市場における米ドルの支配に対抗するために、同国から輸入するガスの代金支払いについて、両国の通貨を巣用することで合意した」と発表しました。

トルコのエルドアン大統領は先週、ロシアのプーチン大統領との会談において、ロシアから輸入する天然ガスの代金をロシア・ルーブルで支払うことで合意したことを明らかにしています。

※安斎注：NATO 加盟国でありながらときどき NATO 社会に波紋を広げている「どっちつかずの不可解な国」とも受け止められることもあるトルコのエルドアン大統領。この面でのロシア・シフトはホントみたいですね。

●ブチャの大虐殺はなぜ演出されたのか-米軍アナリスト（サウス・フロン、2022 年 4 月 19 日）

※安斎注：この「ウクライナ情報」シリーズの読者にはもう不必要なことですが、「ブチャの大虐殺事件」をいまだに「ロシアの仕業」と信じている人も非常に多いようです。既報と内容がダブりますが、何度でも取り上げておきましょう。

ブチャの事件は、国際社会から強い反発を招いた。ロシア軍の駐留によって何が起きたかは、今も世界のメディアで議論されている。ロシア軍がキエフ地方を離れた後、この事件が報じられると、ウクライナ人の反ロシア感情は再び急上昇した。ロシア側は、キエフが提供する情報の信頼性を否定している。犯行の信憑性を否定するさまざまな客観的状況を紹介している。アメリカの軍事アナリスト、スコット・リッター氏もブチャの話は演出されたフェイクだと考え

ている。

スコット・リッターは、ウクライナにおける民間人の死傷者数が、これまで世界で行われてきた他の軍事行動と比較して相対的に少ないことを知る必要があると強調する。米国のイラク作戦の専門家である彼は、イラクとウクライナの民間人の公式死者数（キエフが提供するデータによる）を比較した。彼の比較では、ロシアの作戦中の民間人の犠牲者の割合は、米国が行ったどの近代戦争よりも 7 倍低い（非戦闘員 1 人に対して戦闘員 1 のカウントであったイラク作戦との比較）。

彼のコメントによると、ロシア軍はブチャの住民と良好な関係を築いていたそうだ。ロシア軍は民間人と互恵的な関係を築いた。 配給品を乳製品と交換した。ロシア軍が撤退した後、ロシア製の乾き物の配給を受けた民間人は（ウクライナ軍に）「（ロシアの）協力者」とみなされ、裁判を受けることなく処刑された。彼らの遺体は「ブチャの大虐殺」の演出に使われた。

スコット・リッター氏はいくつかの重要な問題も指摘している。

まず、殺された人たちのほとんどが白いリボンをつけていたこと。ロシア軍はこの民間人をウクライナの妨害工作員と間違えるはずがない。

第二に、多くの死者のそばにはロシア製の干配給が転がっており、これはウクライナ人による「協力者」の処刑の可能性を裏付けるものである。

第三に、前腕に白いリボンをつけていない遺体は、そのリボンで手を縛られていた。

最後に、零度以上の気温のもとで 11 日間も路上に横たわっていた死体は、決してあのような状態には見えないということである。

リッターは、キエフがブチャへのジャーナリストの立ち入りを許可した直後に撮影したメキシコ人ジャーナリストの資料も引用している。彼のビデオには、明らかに最近殺された人々が映っている。

※安斎注：ブチャ事件については、①3 月 30 日のロシア撤退後、4 月 1 日に出てきたブチャ市長は、長々としたスピーチの中で「町に死体ゴロゴロ」なんて一言も言わなかった、②4 月 2 日の国家警察隊のブチャ市内パトロールでも「町に死体ゴロゴロ」という状況はなかった、③同日に入った極右民族主義者集団

●ウクライナ戦争 / アニメーション（2022 年 8 月 14 日）

https://youtu.be/fIQMPW1NcXE

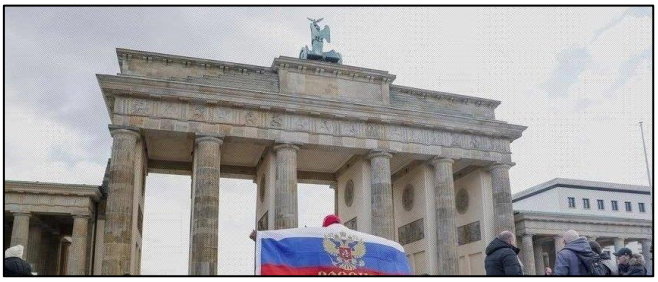
※安斎注：アニメ（今のところ作者不明）の最初に“Barracudas”（バラクーダ）という文字が魚の形で出てきます、これは「カマス」のことです。魚雷や潜水艦の名前にも使われています。“The Theory of Barracuda”（カマス理論）というのがあって、次のような実験に基づきます。

カマスをたくさん水槽に入れ、小魚をたくさん水槽に入れ、間にガラスの板を入れます。
すると最初はガラスの板に気づかずに、カマスがスピードあげて小魚を狙いに行く。
ガラス板にぶつかる。
これを繰り返すうちに、どのカマスも小魚を狙わなくなります。
ここでガラス板を取り除く。
でもカマスは誰も小魚を狙わない。
餓死までしてしまう。
要するに諦めちゃったわけです、挑戦を。
このカマス群に何をやってももう挑戦しない。

ただ一つ、新しい生きのいいカマスを入れる方法だけが効きます。
新しいカマスは、小魚を勢いよく取りに行き、見事にゲットする。
当たり前です。
それを見て、やる気を失ったカマス達が次々と蘇る。
だそうです。
※参考資料：https://ameblo.jp/ketsuko/entry-12080021481.html

アニメでは、ゼレンスキーがネオナチのアゾフ連隊を戦力として（戦車にアズフと書いてある）ドンバスの人々の血を流し続けた結果、（ネオナチを育てた）アメリカの血塗られたドルがどんどんたまる（＄が鉤十字の中に書かれている）という話になっており、最後に「ナチ・ゲームはやめよう」というメッセージが出ます。
「カマス理論」との関係で見たとき、何を意味するのでしょうか？
「鉄のカーテン」があったころはそこを踏み越えた戦争は起こらなかったが、その状況は「鉄のカーテン」がなくなった後もしばらく続いていたものの、いま、ゼレンスキーという「暴れカマス」を入れた結果、食い食われつの状況が生まれるのだ―そう示唆しているのでしょうか？

●欧州の人々の意識の変化（2022年8月 14 日）



オーストリアやドイツでは、ロシアへの支持が高まっているようです。一方、ウクライナへの支援は急減しています。各国の人々は国家的プロパガンダから離れ、自分たちのために歴史を学び、西洋がウクライナのテロとナオナチを支援していることに気づき始めているようです。

●ザポリージャ原発で、ウクライナは世界を人質にとっている（2022年8月10日）

スコット・リッター氏：「ウクライナが世界を人質にとっている。もしザポリージャ原発に一発でも攻撃が直撃すれば、チェルノブイリを超える核の大惨事になる。（今までウクライナを支持してきた行動の結果）、西側諸国はウクライナを非難することができない。IAEA の発言は正しいが、なぜ犯人の名前を挙げないのか？」
https://twitter.com/sabuaka3000/status/1557031085166305281?t=UeiL2tO3W6YQ37-f8MONfQ&s=09

●ベルナルディ（Sky News）がウクライナとカマラ・ハリスを酷評（2022年8月4日）

ゼレンスキーは内戦終結を約束したが悪化させた。ウクライナにおけるロシア系住民への差別と虐殺が８年間続いた。ネオナチのアゾフ大隊に NATO が武器を提供することは恐ろしい結果に繋がる。キエフの NATO 加盟を支持したアメリカ副大統領のカマラ・ハリスを非難する。
https://twitter.com/Tamama0306/status/1555157714547798016?t=XOBHH2gfTCjduYIzDRJp8Q&s=09

※安斎評：カマラ・ハリスは黒人として、さらに女性としてアメリカ初の副大統領。ウクライナ問題担当。ケリー・マケナニー元ホイトハウス報道官は、「カマラ・ハリス副大統領をウクライナの戦争阻止の担当にするのは、ヒラリー・クリントンを iPhone のセキュリティー担当にするようなものだ。全く機能しない」と酷評しています。同氏は2022年3月12日、民主党全国委員会総会で、「アメリカはウクライナと NATO 同盟の家族である」と言明。

●ウクライナの子供たち「バンデラ卍に栄光あれ」（2022年8月4日）

https://twitter.com/Tamama0306/status/1555098357323816960?t=qHs7e2IUQ7hZKcCHi46tng&s=09

※安斎注：私たちの想像以上に、ウクライナではネオナチ思想の次世代への拡散が進められているようです。これまでもいくつもの映像を送りましたが、この映像の女の子たちがいう「バンデラ」とは、ステパーン・バンデラ（1909～1950）のことです。バンデラはウクライナの民族主義組織に加わり、ポーランドからの民族解放を目指し、ナチス政権がポーランドを支配すると今度はナチス政権の擁護者として独ソ戦争に参加。ウクライナ民族の「独立宣言」に激怒したナチスから拘束され、最後は亡命先のミュンヘンでKGBに殺された。ウクライナ国内でもバンデラについてはその評価が分かれており、ウクライナ東部ではバンデラは「ナチスの協力者であり、戦争犯罪者」と見なされる一方、ウクライナ西部では、彼は「国民的英雄」として多くのウクライナ人から尊敬されている。しかし、こうした映像はネオナチ勢力の宣伝の一環であることに注意する必要がある。

●ウクライナ兵を治療するロシア兵（2022年8月1日）

撤退時に自分が撒いた PFM-1 地雷に引っかかったウクライナ兵を治療するロシア兵

https://twitter.com/Tamama0306/status/1554094540851593216?t=Du9Dw90mXnV70 zOcIj81g&s=09

※安斎注：PFM-1 地雷は「蝶々型地雷」、ウクライナ軍（実際はアメリカと NATO）はロケットで地雷 PFM-1「ペダル」を居住地に大量に発射している。住民、子どもがターゲットで、大きさは 12 センチ 80 グラム。5 キログラムの重さで爆発するので、子どもが乗っても爆発する。殺すのが目的ではなく、足を吹き飛ばして障害者にすることが目的。前に、ロシア軍側の兵士が「ペダル」に向かってタイヤを投げつけて爆発・除去している動画を送ったが、驚くべきことに西側では「ロシア軍が撒いた地雷を勇敢なウクライナ兵が除去している」と捏造報道された。元は下の動画。

https://twitter.com/Tamama0306/status/1553762963009376256

●フランス人ジャーナリスト、ウクライナ軍によるザポリージャ原発への砲撃について語る（2022年8月13日）

「世界規模の自殺を決意したか、単に気が狂ったかのどちらかだ」

https://twitter.com/nanpinQD/status/1558378166099771394?t=0Ecv-8lGyJdo0OxuL8W8JQ&s=09

●捕虜になったあるウクライナ軍司令官の回想（2022年8月14日）

私はヴォリンスキー・セルゲイ・ヤロスラヴォヴィッチです。36 部隊司令官として従軍し、アゾフスタルの司令官に任命されました。戦争犯罪で囚人になっています。正直言って、戦地にいるときよりごはんを美味しく頂いています。

https://twitter.com/Kumi japonesa/status/1558693259312041989?t=A0ByPvc8cHmAlnSY 2sFCQ&s=09